

令和4年度 行政評価調書

■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.120～121)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)		
施策名	4-2 道路・河川		
所管部	建設部	関係部	なし
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.41)</p> <p>道路や河川の整備を進め、安全・安心で暮らしやすい生活環境の確保を目指します。 このため、地震や大雨など災害に強い道路の整備を進めるとともに、橋りょうやトンネルなどの道路施設は適切な維持管理に努めます。 また、河川については、過去の豪雨災害を踏まえた上で整備を行い、水害対策の強化を図るとともに、親水性などに配慮した水辺環境の創出に努めます。</p>		
市民アンケート 指標	道路の整備や維持管理が適切に行われていると感じている市民の割合	基準値	目標値
		35.9%	基準値より増

■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.120～121)

小施策 及び 指標	(1)道路の整備、維持管理		基準値	目標値
	指標	道路改良工事等で側溝や舗装などを新設又は改良する市道の整備延長	2km	20km
		小樽市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、修繕を完了する橋りょう数	2橋	37橋(R6)
	(2)河川の整備、維持管理		基準値	目標値
	指標	河川しゅんせつの延長	2.5km	3.0km
		沈砂池のしゅんせつ箇所	4か所	4か所(R6)

令和4年度 行政評価調書

■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)					
施策名	4-2 道路・河川					
所管部	建設部	関係部	なし			
市民アンケート 指標	道路の整備や維持管理が適切に行われていると感じている市民の割合	基準値	令和3年度	令和5年度	目標値	
		35.9%	34.2%		基準値より増	
市民アンケート 指標の推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない ー:判定不能(実績値なし)				
各小施策の 指標の推移	指標		基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	道路改良工事等で側溝や舗装などを新設又は改良する市道の整備延長(令和元年度以降の合計値による判定)	2km	6.52km	◎	20km
		小樽市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、修繕を完了する橋りょう数	2橋	9橋	△	37橋(R6)
	(2)	河川しゅんせつの延長	2.5km	2.km	△	3.0km
		沈砂池のしゅんせつ箇所	4か所	3か所	△	4か所(R6)
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)						
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後の 方向性	C-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う			
総評及び今後の 具体的方針 ほか特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小施策(1)の市道の整備延長については順調に推移しているが、市民アンケート指標、小施策(1)の修繕を完了する橋りょう数の推移は順調ではない。 ・小施策(2)の河川のしゅんせつ延長、沈砂池しゅんせつ箇所については、例年よりも土砂の堆積等が少なく、いずれも例年度の実績値を下回るが、継続的なしゅんせつにより、良好な状態を維持できている。 ・市道の整備延長は目標に向けて順調に推移しているものの、整備済み延長は目標値と比較すると整備の途上にあり、その整備効果が市民アンケートの結果に反映されるまでには時間を要する。引き続き、道路の整備や維持管理を着実に進め、市民アンケート指標の向上に努める。 					

■有識者会議による点検 (対象 非対象)

点検結果	
------	--

■施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後の 方向性	C-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ○各指標の推移等は、一次評価のとおりと考える。 ○円滑な交通体系を構築し、安全・安心で暮らしやすい生活環境を確保するため、市民生活に密接した道路の改良や維持補修等の事業を引き続き実施すること。 ○橋梁の修繕については、計画の遅れがあることから、引き続き事業の推進に努めること。 		

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(1)道路の整備、維持管理①

(第7次総合計画 基本計画 P.120)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	道路改良工事等で側溝や舗装などを新設又は改良する市道の整備延長		平成28～30年平均		2km	20km (R1～R10合計)		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
単年度			2.24km	2.46km	1.82km			
	累計	2.24km	4.70km	6.52km				
指標推移	◎	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	★老朽化した道路や未舗装道路の改良(建設部建設事業室) ○側溝整備などによる排水機能の強化(建設部建設事業室)							
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 臨時市道整備事業(993、995、3194)		② 315,287 千円		③ 建設部建設事業室・庶務課		
		④ 市道の老朽化路線の更新、狹隘区間の解消、溢水対策、未整備区間の改良を進め、安全で快適な市民生活及び円滑な交通の確保をするものである。						
		⑤ 舗装改良工事(長橋中学校南団地線ほか3線)L=490m、道路改良工事(債務負担行為)(赤岩2丁目団地横通第3線ほか3線)L=368m、道路改良工事(育成院東第5分線ほか8線)L=821m、側溝改良工事(陸橋通線ほか1線)L=148m、道路擁壁改良工事(朝里東20号線)L=25m						
	2	① 道路橋りょう維持費(986、988、989、990)		② 152,027 千円		③ 建設部建設事業室		
		④ 円滑な車両交通並びに歩行者等の安全を確保するため、道路施設の維持補修を行う。また、冬期間に散布された砂等の路面清掃、路肩の草刈、側溝清掃の委託業務を行い、地域住民の健全な生活環境を図る。						
		⑤ 令和3年度 舗装補修工事 829㎡、側溝補修工事876m、砂利道補修工事1,869㎡、石垣補修工事16㎡、防護柵補修工事等371m						
	3	① 市道整備事業費(984)		② 44,979 千円		③ 建設部建設事業室		
		④ 道路の老朽化が年々進行し、舗装の穴や亀裂等の発生が増加傾向にあるため、舗装補修の迅速化を図り、適切な維持管理を行う。						
		⑤ 令和3年度 9,580㎡						
	4	① 道路ストック更新事業費(2476)		② 1,870 千円		③ 建設部建設事業室		
		④ 本事業は、老朽化が進む道路ストックについて点検の結果に基づき修繕計画を策定し、適切な時期に対策を実施することで、第三者被害の防止と長寿命化によるライフサイクルコスト縮減を図り、道路の安全性・信頼性を確保する。						
		⑤ 令和3年度 道路擁壁改良工事(桜1号線)L=25m						
5	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
6	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
指標推移の要因等	・整備事業計画に基づき、適切な整備を行っていることから順調に推移している。							
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和3年度を取組を継続							
指標推移への対応方針 (令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>							
	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う ・各事業の実施により指標の維持ができてきていることから、引き続き事業を継続する。 ・今後も道路パトロールや地域要望等により道路改良等の対策が必要である路線について、地域性を考慮の上、施設整備の緊急度、路線の重要度、整備効果及び困難度を勘案し、優先度を付けて事業を実施していく。						

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(1)道路の整備、維持管理②

(第7次総合計画 基本計画 P.120)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	小樽市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、修繕を完了する橋りょう数		平成30年		2橋	37橋(R6)		
年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
		5橋	6橋	9橋				
指標推移	△	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	★老朽化した橋りょうなど道路施設の修繕や耐震化(建設部建設事業室)【共4-7防災・危機管理】 ○道路施設の修繕計画の更新(建設部建設事業室)							
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 橋りょう長寿命化事業(2474)(共4-7)		② 418,421 千円		③ 建設部建設事業室		
		④ 本事業は、策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき適切な修繕を行うことで、橋梁の長寿命化と維持管理コストの縮減を図り、将来にわたり安全・安心な道路網を確保するものである。						
		⑤ 修繕済み橋梁数 令和元年度3橋、令和2年度1橋、令和3年度3橋						
	2	① 道路法定点検事業費(2847)		② 32,736 千円		③ 建設部建設事業室		
		④ 本事業は、近接目視による定期点検を実施するものであり、道路施設による第三者被害の予防や道路交通における安全、安心の確保が期待できるとともに、適切な維持管理を可能とするものである。						
		⑤ 点検橋梁数 令和元年度48橋、令和2年度47橋、令和3年度10橋						
	3	① 橋りょうの維持管理		② - 千円		③ 建設部建設事業室		
		④ 円滑な車両交通並びに歩行者等の安全を確保するため、道路施設の維持補修を行う(道路橋りょう維持費の一部として実施)。						
		⑤ 補修橋梁数 令和元年度1橋、令和2年度実績なし、令和3年度実績なし						
	4	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
5	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
6	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
指標推移の要因等	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき修繕を行っているが、関係機関との調整に時間を要する等、計画に対する遅れがみられることから、事業を促進していく必要がある。							
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和3年度の取組を継続							
指標推移への対応方針(令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>							
	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う ・今後も橋梁長寿命化計画の見直しを行いつつ、引き続き事業を継続する。						

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(2)河川の整備、維持管理

(第7次総合計画 基本計画 P.121)

指標1	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	河川しゅんせつの延長		平成30年		2.5km	3.0km	
年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		2.25km	2.32km	2.00km			
指標1推移	△	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
指標2	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	沈砂池のしゅんせつ箇所		平成30年		4か所	4か所(R6)	
年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		4か所	4か所	3か所			
指標2推移	△	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
主な取組	○継続的な河川しゅんせつによる水害対策の強化(建設部建設事業室) ○老朽化した河川施設の修繕等(建設部建設事業室)【共4-7防災・危機管理】 ○継続的な沈砂池しゅんせつによる小樽運河の水質維持(建設部建設事業室)						
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 銭函地区河川防災事業(1008)		② 14,925 千円		③ 建設部建設事業室	
		④ 平坦地である銭函地区の浸水被害の防止を目的とし、閉塞している土砂等を取り除き、河川の機能回復を図る防災事業である。					
		⑤ R3河川しゅんせつ工事 L=2,000m (旧星置川、ポンナイ川、ポンナイ第1川、ポンナイ第2川、銭函川)					
	2	① 沈砂池しゅんせつ等工事(1009)		② 20,931 千円		③ 建設部建設事業室	
		④ 河川機能を維持及び海域への泥水流出防止のため、適切な維持管理を行う。					
		⑤ R3護岸補修等工事(奥沢川、勝内川) R3沈砂池しゅんせつ工事 3か所(於古発川、色内川、手宮仲川)					
	3	①		② 千円		③	
		④					
		⑤					
	4	①		② 千円		③	
		④					
		⑤					
5	①		② 千円		③		
	④						
	⑤						
指標推移の要因等	・指標1、2について、例年より土砂の堆積が少なく、しゅんせつ延長が令和2年度よりも減少しているが、該当河川の継続的なしゅんせつにより良好な状態を維持できている。						
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和3年度の取組を継続						
指標推移への対応方針 (令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>						
	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う ・引き続き現地パトロールにより、河川の現状の把握に努め、適切な時期に河川しゅんせつ及び護岸補修を実施するなど、事業の進め方を工夫しながら、しゅんせつ延長の増加に努める。 ・小樽運河の水質維持を目的として、適切な時期に沈砂池しゅんせつを実施する。					